

問1 1980年から2000年にかけての九州地方における工業出荷額の内訳の変化について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2016年 神奈川県公立入試 類似）

1. 鉄鋼や化学などの基礎素材型産業の割合が減少し、電気機械などの加工組立型産業の割合が増加した。
2. 食料品などの生活関連型産業が急増し、工業出荷額において電気機械を上回り首位となった。
3. 加工組立型産業が海外移転により衰退し、再び鉄鋼や化学などの重化学工業が中心となった。
4. 石油化学コンビナートの増設により、化学工業の出荷額が電気機械の出荷額を大きく引き離れた。

問2 鹿児島県に広く見られる、標高30m程度の平坦な面を持つ火山噴出物の台地では、その土壌の性質から、古くから土地利用に工夫がなされてきました。この地域の自然環境と農業の関係について説明した文として、最も適切なものを選択してください。（2020年 群馬県公立入試 類似）

1. 水はけが非常に良く水田に適さないため、サツマイモなどの畑作や畜産が発展した。
2. 土壌の保水力が極めて高いため、大規模な稲作地帯として開発が進んだ。
3. 堆積物が栄養分を豊富に含んでいたため、特別な肥料なしで稲の二期作が行われた。
4. 土壌が常に湿潤であるため、低湿地での栽培に適したレンコンの生産が盛んになった。

問3 鹿児島県の南方に位置し、人口約3万人のある島に関する統計資料において、「日本最大のロケット打ち上げ施設（宇宙センター）があり、宇宙開発関連の観光が行われている」「農業ではサトウキビの生産が盛んである」と説明されている島はどこですか。（2019年 東京都公立入試 類似）

1. 屋久島
2. 種子島
3. 奄美大島
4. 奄岐島

問4 世界最大級のカルデラを持つ阿蘇山が位置する県について、統計資料において第1次産業の就業者割合が約10パーセントと比較的高く、人口密度が1平方キロメートルあたり約240人である場合、この県の名前として正しいものはどれですか。（2019年 愛知県公立入試 類似）

1. 熊本県
2. 鹿児島県
3. 長崎県
4. 宮崎県

問5 九州地方南部のシラス台地において、古くから水田稲作ではなく、サツマイモなどの畑作や畜産業が盛んに行われてきた理由として、土壌の性質から説明したものとして適切なものはどれですか。（2020年 静岡県公立入試 類似）

1. 火山噴出物でできた地層は水はけが非常に良く、水田に必要な水を貯めておくことが難しかったため。
2. 標高が高く気温が低いため、熱帯性の作物である稲の栽培が困難だったため。
3. 土壌に塩分が多く含まれており、稲の成長を阻害する性質を持っていたため。
4. 地盤が非常に軟弱であり、重い農機具を利用した大規模な耕作に適さなかったため。

問6 筑紫平野において、同一の耕地で一年のうち米と麦を交互に栽培する「二毛作」を可能にしている背景や目的として、最も適切な説明はどれですか。（2025年 京都公立入試 類似）

1. 冬でも雪が少なく温暖な気候を活かし、土地を休ませることなく効率的に活用するため。
2. 夏場に発生しやすい台風の被害を避けるため、収穫時期を大幅に早める必要があるため。
3. 化学肥料や大規模な農業機械を導入することで、土壌の養分を短時間で回復させるため。
4. 海外からの輸入農産物に対抗するため、米の生産を休止して小麦の専門農家へ転換するため。

問7 九州地方の宮崎平野では、ビニールハウスなどの施設を利用して野菜の出荷時期を早める工夫がなされています。このように、温暖な気候を活用してあえて本来の旬よりも早く出荷する栽培方法を選択する、商業上の主な理由として正しいものはどれですか。（2015年 大分県公立入試 類似）

1. 他の産地からの出荷が少ない時期に販売することで、高い価格で取引するため
2. 夏の台風による被害を最小限に抑えるため、春のうちに収穫を終えるため
3. 農薬や肥料の使用量を大幅に減らし、生産コストを削減することを目的とするため
4. 都市部までの輸送距離が長いいため、移動中に野菜が成熟するように調整するため

問8 九州地方南部の鹿児島県などに広く分布する、過去の巨大火山による噴火で発生した火砕流などの堆積物が積み重なって形成された台地を何といいますか。（2020年 静岡県公立入試 類似）

1. シラス台地
2. カルデラ
3. 扇状地
4. 三角州

答え合わせ・解説

問1	答え 1 鉄鋼や化学などの基礎素材型産業の割合が減少し、電気機械などの加工組立型産業の割合が増加した。	九州地方では、かつて北九州工業地帯を中心に鉄鋼や化学といった「基礎素材型産業」が盛んでしたが、1980年代以降、空港周辺や高速道路沿いにIC（集積回路）などの工場が進出したことで「シリコンアイランド」と呼ばれるようになりました。これにより、電気機械や輸送用機械に代表される、部品を組み立てて製品を作る「加工組立型産業」の割合が大きく上昇し、産業構造の転換が起こりました。
問2	答え 1 水はけが非常に良く水田に適さないため、サツマイモなどの畑作や畜産が発展した。	シラス台地は火山灰などが厚く積もってできており、水分が地下に浸透しやすいため、水を溜めておく必要がある水田稲作には適していません。そのため、江戸時代に伝来したサツマイモのように、水はけが良く乾燥した土地でも育つ作物の栽培が広がりました。近年ではスプリンクラーなどの灌漑施設の整備により、野菜栽培や畜産も盛んになっています。
問3	答え 2 種子島	鹿児島県の南方に位置する種子島は、島全域に平坦な丘陵が広がっているのが特徴です。この地形を活かして、日本最大のロケット打ち上げ施設である種子島宇宙センターが設置されており、宇宙開発は島の重要な観光資源にもなっています。また、温暖な気候を利用したサトウキビ栽培も島の主要な産業の一つです。
問4	答え 1 熊本県	阿蘇山は熊本県に位置しています。熊本県は豊かな湧水や阿蘇の広大な景観を活かした農業が盛んであり、第1次産業の就業者割合が全国平均よりも高い傾向にあります。鹿児島県にはシラス台地、長崎県にはリアス海岸といった特徴的な地形がありますが、阿蘇山のカルデラがあるのは熊本県です。
問5	答え 1 火山噴出物でできた地層は水はけが非常に良く、水田に必要な水を貯めておくことが難しかったため。	シラス台地を構成する火砕流堆積物は粒が粗く、隙間が多いため、雨が降ってもすぐに地下へ浸透してしまう「水はけが良すぎる」という性質があります。そのため、常に水を張る必要がある水田には不向きであり、乾燥に強いサツマイモや、広大な土地を利用した豚・鶏・牛などの畜産業が発展しました。
問6	答え 1 冬でも雪が少なく温暖な気候を活かし、土地を休ませることなく効率的に活用するため。	二毛作が行われる大きな理由は、限られた耕地からより多くの収益を得るための土地の高度利用にあります。九州北部の筑紫平野は、冬でも比較的温暖で積雪が少ないため、水稻の収穫後に麦を育てる「裏作」が可能となります。クレーク（人工の水路）が発達し、水管理の技術が向上したことも、このような集約的な農業を支える要因となっています。
問7	答え 1 他の産地からの出荷が少ない時期に販売することで、高い価格で取引するため	促成栽培の最大の目的は、他の産地が収穫できない冬から春にかけての時期に市場へ供給することです。供給量が少ない時期に新鮮な野菜を出荷することで、通常よりも高い価格で販売することが可能になり、遠隔地である消費地（東京や大阪など）への輸送費を考慮しても十分な利益を確保できるようになります。
問8	答え 1 シラス台地	九州地方南部には、数千年前の巨大噴火による火山噴出物が数百メートルもの厚さで堆積した地形が見られます。この白っぽい砂状の堆積物は「シラス」と呼ばれ、それが広大な台地を形成しています。鹿屋市周辺など、大隅半島から薩摩半島にかけての広い範囲で見られる特徴的な地貌です。